入職前後のミスマッチ防止

コラム

入職時のミスマッチを防ぐことが 長期雇用へつながる

◆ 一般的な離職の傾向として、入社後3年未満での早期離職の割合は高く、その原因はミスマッチ(当初の想定と異なる)によるものと考えられる。このことは福祉業界も例外ではなく、「思ったより大変」・「自分に合わない」などを理由に、福祉系学校卒やキャリア採用者であっても、早期離職に陥るケースも見られる。

採用に向けて

入職前後のミスマッチ防止

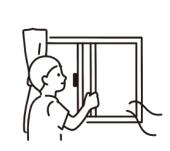
コラム

入職時のミスマッチを防ぐことが 長期雇用へつながる

- ◆ これらを予防するために、「**入社前にできるだけ職場や仕事を知ってもらう」**ことは、求職者・企業の双方に効果的である。
- ◆ **企業の採用ページ**には、一般的な就業条件や応募資格だけでなく、
- ・「施設の特色」
- ・「職場の日常風景」
- ・「シフト毎の業務内容」







入職前後のミスマッチ防止

コラム

入職時のミスマッチを防ぐことが 長期雇用へつながる

◆ その上で、

面接前に「インターンシップ」や「就業体験」、「職場見学」などを経て、「ここであれば働けそう」という整理ができた上で面接に臨む、というプロセスを重視している事例も見られる。

◆ 障害福祉の仕事は、近隣分野の「医療」・「介護」・「保育」などに比べて、 「仕事内容や必要なスキルがわかりづらい」という印象を持たれているようだ。 そのようなハードルを下げて「まずは職場を知ってもらう」という視点も重要である。